

令和4年度(2022)第1回出雲市総合教育会議会議録

令和4年(2022)6月27日(月)午後3時10分、令和4年度(2022)第1回出雲市総合教育会議を出雲市役所3階庁議室に招集した。

次第

I 市長あいさつ

II 協議事項

◎出雲市総合振興計画について

◎教育を取り巻く諸課題

テーマ 「部活動について」

(運動部だけでなく文化部も含めたすべての部活動)

III 教育長あいさつ

出席者名簿

出雲市総合教育会議

市 長	飯 塚 俊 之
教 育 長	杉 谷 学
教 育 委 員	金 築 千 晴
教 育 委 員	内 藤 祐 馬
教 育 委 員	高 橋 詠
教 育 委 員	川 田 量 子
副市長(オブザーバー)	伊 藤 功

教育部

副 教 育 長	安 井 孝 治
教 育 部 次 長	山 崎 創
教 育 部 次 長	園 山 裕 二
教 育 部 次 長	金 築 健 志
教育政策課 課長	常 松 博 雄
学校教育課 課長	福 間 耕 治
学校教育課 主査	山 本 芳 正
児童生徒支援課 課長	松 井 博 之
児童生徒支援課 課長補佐	妹 尾 博 貴
教育政策課 課長補佐(書記)	池 尻 精 二

市民文化部

文化スポーツ課長	矢 田 和 則
文化スポーツ課 係長	勝 部 宏 樹

(安井副教育長) しばらくの間、進行を務めさせていただきます、副教育長の安井でございます。よろしくお願いいたします。それでは、ただいまから、令和4年度第1回総合教育会議を開会します。開会にあたりまして、飯塚市長がごあいさついたします。

I 市長あいさつ

(飯塚市長) 本日は、令和4年度第1回出雲市総合教育会議を開催しましたところ、教育委員の皆様方には、大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございました。本会議は、本市の教育の課題や、あるべき姿について、市長である私と教育委員会が情報を共有し、意思統一する場であります。金築委員、内藤委員については、これまでも参加いただきまして、さまざまなご意見を頂戴したところでございます。高橋委員と川田委員におかれましては、今回、初めてということでございます。忌憚のないご意見を言っていただければ有意義な会になるかと思えます。よろしくお願いいたします。コロナウィルス感染症が全国的には依然として感染者が続く中、本市においては、ご案内のようにかなり厳しい状況になってきております。特に学校においては、様々な感染症予防対策を講じながら学校を運営する状況が続いております。今後も実効性ある対策をしっかりとしていきたいと思っております。

さて、本年の施政方針で表明しましたとおり、市内14、全部の中学校を訪問し、私自ら中学生のみなさんに出雲の魅力や潜在力の高さについて、直接語りかけ、本市への誇りと愛着を持ってもらえる取組を実施したところであります。ちょうど、先週24日の金曜日に佐田中学校にてスタートさせていただきました。1回目でしたけれども、とてもよく勉強しているなと思ひましたし、頼もしく思ったところであります。地域のことは、自分たち自らで解決しようという思いで取り組んでいる姿に、嬉しく思ったところであります。そういう機会を残し13校ありますので、直接話をする中で、今の中学生の声をしっかりと聞いて、また、みなさん型にフィードバックできればと思います。

また、本日は、出雲市の最上位計画である出雲市総合振興計画を策定する途中でありまして、それについて、校長会中学校区14か所すべて終わったところですので、ご説明させていただきたいと思ひます。

また、議会でも一般質問等、部活動のことについて、非常に多くの質問をいただいたところです。これらの国県の動向などを説明させていただき、意見交換をさせていただきたいと思っております。

限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い致しまして冒頭のご挨拶とさせていただきます。

(安井副教育長) 協議に入る前に初めての委員さんもうらっしゃいますので、この会について説明させていただきたいと思ひます。お手元に資料1としてお配りしております「出雲市総合教育会議設置要綱」をご覧くださいませでしょうか。この総合教育会議につきまして

は、平成26年の通常国会、国の方で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正があり、各自治体に設置することとなりました。自治体において教育行政は、教育委員会が執行していますが、予算編成や議会への条例の提案、施設の設置などは法律上市長の権限とされています。また、近年では放課後対策など、市長と教育委員会が力を合わせて取り組むことが必要な課題も多くでてきているところでもあります。この総合教育会議では、市長と教育委員が、教育も含めた市を取り巻く様々な課題の協議・調整を行うことで、市政や教育行政の様々な課題に効率的に取り組むことを目的としております。本日は、資料の第2条第2号として掲げております「出雲市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」として2つの課題について、協議や意見交換を行っていただく予定としています。

そういたしますと、第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となり進行を行うこととなっております。以降の進行については、市長にお願いいたします。

Ⅱ 協議事項

◎出雲市総合振興計画について

(飯塚市長)ここからは、私が進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。それではさっそく、Ⅱ 協議事項に入ります。まず、私から「出雲市総合振興計画について、パワーポイントを用いて説明いたします。

(資料を用いて説明)

(飯塚市長)総合振興計画について説明をさせていただきました。意見交換を行いと思えます。先ほども言いました「ともに育む」の部分が教育に関する部分です。ここだけでなくもいいですけども、お話しいただければと思います。ちなみにですね、今のこのこちらの方、こちら素案の方のところの、ともに育むが50ページから55ページのところが、「ともに育む」ということで、教育の分野の方向性を示してることでもありますので、少しちょっと、ご覧いただいて、この中からご意見をいただければと思います。これに限らずですけど、まずこのところが関連する分野でありますので、お願いしたいところです。すみません。それとちょっと合わせて、8ページ9ページちょっと先ほども言いましたけれど、これ基本構想ということで、全体的な方向性を示しています。9月議会にこれをかけて、議決をいただくわけありますけども、その後にですね、一つ一つ計画をさらに進めていくということで基本計画というものも、12月につくってまいります。それについては、この中ではちょっとお示しができていなくてですね、今の大きな方向性、こういう方向性を目指していくというのを、詳しく50ページから55ページに書かせさせていただいておりますので、そう思って見ていただければと思います。この50ページとかのこの中にある項目でも言いだしこの下を書いてあることをもうちょっとどうですかというご質問でも結構かと思っておりますので、お願いしたいと思います。

(杉谷教育長) 教育の部分でも 50 ページから、「ともに育む」とあるのですが、それに合わせて、並行して第 4 期教育振興計画を作っております。今日ちょっとそれがお手元にないというのがあるかもしれませんが、52 ページ、53 ページにある各項目については教育振興計画の中でも、具体的に取り上げているというものです。現状をご覧いただいて、もうちょっと、どういうところというようなご意見でも、いいかもしれません。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) これは抽象的に書かれている、出雲の子どもたちの姿であると思うんですけど、その中で読んでいくと、質の高い教育っていうのがあるわけなんです。質の高い教育とは一体全体何なのかなと思っております。ちょっとその姿、形を示していただきたいなと思うのです。

(飯塚市長) 52 ページのところ、一番上の「質の高い教育」とある、そのところの部分ですね。

(安井副教育長) この原案というのは、事務局の方で練ったものということです。質の高いと敢えて加えてあるというのは、同じ時間、例えば授業をしていても、教科書をただ読んでいくとか、子どもが学びに繋がらないということがないように、限られた時間でいろいろな工夫をしながら、刺激を与えたり体験活動とか、一連の教育活動の中でも学校はそれぞれ重点的な特色的なものを持っています。学校生活全体の中で、身につけさせたいということです。漠然とした理想の子ども像ということになるかもしれませんが、それに繋げるために、いろいろ工夫をして、ここでは特に授業のことを書いていますけれども、授業の質を上げるということが学びの質にも繋がると。合わせて、それを質の高い教育というような書きぶりしております。言われるように抽象的ですので、振興計画等々で、さらに、目指すべき具体案を書き込んでいきたいと思っています。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) 授業ということで、内容がわかりました。

(飯塚市長) 金築委員。

(金築委員) 51 ページの高校生が出雲に愛着と魅力を感じるのが 81 %、今アンケートであるのです。具体的にどのような部分に愛着とか魅力とか誇りを感じているのか、示して

いただくと。私たちも何か全くわからなくて。81%が多いような気がして、うれしい反面、どんなところを魅力に思っているのか知りたいです。これどこかに出てますかね。具体的な内容が。

(飯塚市長) 詳しいデータはですね、ちょっと担当のところ総合政策が持っていると思うのです。12ページの方に上位10の主なものがまとめられています。その中の調査項目の中に、そういうような設問があったということです。アンケート内容の項目をもってきてもらって説明させてもらいたいと思います。それ以外のところでありましたら。内藤委員。

(内藤委員) この出雲の姿の3つ目の困難を抱える子どもたちに対してというところの説明をしていただきたいです。50ページの部分です。

(安井副教育長) 50ページの困難を抱える子どもたちということで、いろいろな困難があります。53ページをちょっと開いていただきますと、主なところでは右の2番目3番目あたりということで、一つは、一人一人の子どもの成長を支えるという一つ目の〇はこれは特別支援教育ということで、一人一人を大切にすると。もう一つが、不登校いじめ問題行動ということで学校へ行けない子どもたちもいると。そういった子どもたち一人一人の成長を支える。その下の日本語指導ということで、これも本市の特徴的なところなんです。なかなか言葉のハンディというか、ハードルがある中で、学んで行って欲しいといったところがあります。主に困難を抱える子どもたちという部分で、一人一人のニーズにできるだけ合わせた教育をしたいということを50ページ方では掲げているというところがございます。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) 以前も多分、話が出てたと思うんですけどICTの活用というのも、例えばこの不登校、いじめの子どもに対応していくっていうのは、頭の中におありなんですか。

(飯塚市長) 安井副教育長。

(安井副教育長) 少し具体の話になりますけれども、今言われたような不登校傾向のお子さんであるとか、特別支援教育においても使っておられる学校等もあります。先般、市長も職場訪問という形でeスポーツをやっておられるところへ行かれました。そこでの説明でも、不登校のお子さんが来られてですね、そこでコミュニケーション能力を育てておられるというお話もありました。そういったことやICTを含めて、出雲市でどのように取り入れていくかということは、今、検討を始めているところです。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) コロナになって、この I C T 機器を使って進めることについてチャンスもあると。チャンスになると思ってます。この不登校、いじめも、まず、I C T っていうのも選択肢の一つでどんどん使っていただきたいなと思って、発言させていただきました。

(飯塚市長) 先ほど、副教育長の方からも話がありました。私も聞きましたし、教育委員会の方も、副教育長はじめ何人か一緒に行かさせていただいて、視察させていただきました。今後、具体なところでは様々なことで、これだけではなくて様々な分野で活用できるように取り組んで行きたいというふうに思います。高橋委員。

(高橋委員) 53 ページに安全安心でおいしい学校給食ということです。私、多伎町なんですけれども、多伎町の給食っていうのはすごく今まで美味しくて、地産地消ということで、地元のものを使わせていただいて、おいしい給食であったと子どもたちからも聞いているんです。給食センターの統合ということで、多伎町からは給食センターがなくなりました。そうするとちょっと内容的にいろいろ地域のものとは言ってるんですけれども、なかなかちょっとそういった質が、今までとやっぱり違ってくる。やっぱり大きくなればなるほど、そういったところは地域からは離れていくというふうに私はちょっと思ってるのです。なにもかも、やっぱり人数が少なくなってくると、ちょっと統合という形になっているので、なかなかちょっと地域のことがもうちょっとなるといいかなというふうに思うのですが。

(飯塚市長) 安井副教育長。

(安井副教育長) 学校給食の地域のものをということで、確かに統合してですね、小さい調理場はなくなったわけです。少し地域を広く考えていただくとですね、出雲市全体が地域だという捉え方をしていただくと、全体としては地産地消という考え方で、地域のものを子どもたちに美味しく食べて欲しいということで考えております。きめ細やかに出来ていたということは確かにあると思いますけども、それを本当は拡大ができればいいんですが、数量が拡大するだけ実際はなくて、そういった地産地消のネットワークと言うものを中で持っていますので、そういうところで、いろいろ生産者の方と話をしながらですね、可能な限り、そういったものを取り入れてやっていけたらなというふうに思っています。

(飯塚市長) 高橋委員。

(高橋委員) 例えばメニューに今日多伎町のものがあるよとか、斐川町のものがあるよとか、

出雲のこの地区の何かがあるよってということが例えば、今日は特別ですみたいな感じであると、子どもたちも今日って、例えば多伎町のイチジクなんだとか、ここで取れたものなんだってということが分かってくると食べ物に関していろいろ興味を持っていくんじゃないかなというふうに思います。そこのところは一つ、また、ご検討ください。

(飯塚市長) 杉谷教育長。

(杉谷教育長) 現在、おいしい出雲の日を設定しています。献立表には、これはどこ産のなにになにを使ったものですよっていうのを、子どもたちのに見えるようにはしています。いろんなところで校内放送も含めて、そういうPRをしながら学校給食を楽しんでもらえるような工夫はできるかなと。現在していることの延長線上になるのかなと。

(飯塚市長) 先ほど金築委員さんからご質問がありました件でありますけども、お手元の方資料が配布されたと思います。81.数パーセントのものです。設問の方の左の上の方、出雲市に愛着や魅力を感じますかという設問に対しまして感じる、ある程度感じるという、この%が81.1%ということであります。この設問の数値を上げていくというのが、ここでのチャレンジ目標になっているということでもあります。金築委員。

(金築委員) 何か高校生らしいというか、良いところをこんな風に思っているんだということが分かってよかったです。この数字を85%にするためにはこの良いところをさらに伸ばしていくのか、不足してるところを補って行って、さらに魅力的にしていきたいと思わせるのかどうなのかなという気もするのですけれど、どうでしょうか。

(飯塚市長) 両方ですね。当然、いいところはしっかりとこのまま維持して行って、さらにこの魅力を感じてもらいたいと思います。今、左のページの(2)のところのよいところ、自然の豊かさ、人情とかですね、普遍的なものといいますか、このようなことをしっかりと伝えて行きたいし、育んでもらいたいと思っています。また、不足してるところ、先ほど佐田の例も言いましたけれども、交通機関の不足というものの指摘もあったところあります。今、公共交通の計画も作ってますので、改善できることがあればしっかりとしていきたいというふうに思ってます。あと、活気をまちにということは、これは努めて、いろんな施策を持って行って、魅力あるまちづくりしていきたいなというふうに思っています。そういうことを含めて、愛着が持てる、また、この地域が元気になればですね、そういうことを思ってくれる児童生徒が増えていくと思っています。不易流行ということで取り組みたいというふうに思います。金築委員。

(金築委員) 自然の豊かさとか、人情の豊かさについては、やっぱり地域や外に出なきゃわ

からないことだと思います。割と今頃はコロナの関係で中で勉強することも多くて、世間を見ることも少なくなってると思うのです。もっともっと育んでもらうためには、もっと外に目を向ける。私、コミセンの役割ってそこがあると思っています。コミセンさん、すぐれた人材とかをいっぱい知っておられるので、そういう方たちと触れ合う機会とか、教えてもらう機会とか、地域で子どもを育てていけたらいいなとずっとと思っています。合わせて、さきほど食のことも出ましたけれども、私、最近子ども食堂も始めまして、食の恵まれない子どもも増えてると思うのでそういった部分を地域で皆さんで育てていけたらいいなと思っております。そういう部分も、また考えていただけたらと思います。

(飯塚市長) また、基本計画といいますか、そういうものを作っていく中で参考にさせていただきたいというふうに思います。川田委員さん。

(川田委員) 先ほどICTの不登校児に活用していくっていう話を聞いて、本当にすごく画期的だし、いいなと思います。今朝のニュースかなんかで、大学でも、リモート授業の対応を認めるっていうのが増えたというニュースがありました。本当に、学校の先生たちではとても対応できないぐらい教室に入れない子たちが多いです。私は、中部小学校で読み語りをしてますけれども、ここ数年、特に空席が目立つなという感想を持っています。それが良い、悪いというか、時代の要請というか多様化してるような中で、複雑になっている中で、皆で一緒に教室っていうのは、いいか悪いかわかりませんが、何か無理があるのかなとなんとなく感じてまして、そういう子たちに対応できるような。もっと教育の機会を平等にというか、学校以外でも学べるっていう機会があるといいかなと思いました。今、私は、ICTの活用を不登校児に活用するっていうアイデア、考えがなくって、大きな気づきでした。ただ、先生方の苦労は見てまして、ICTをすぐに現場ですぐやれと言われても、普通の業務プラスアルファのことをやるのが、本当に大変そうです。高校でも、何でできないのと保護者から言われると、すごく大変なんですって説明をするのも大変なぐらい、分かってもらるのが本当に大変です。あれだけ準備時間があつたでしょうと言われても、個人でZoomでやるのと、また、生徒全員をZoomで授業をしたり、teamsとかでやるのは全然違う話なんですけれども、そういうシステムを作るのって、先生方が業務の中でするのは、大変だと思ってるんです。その辺については専門家を派遣されとかそういう措置をとっていかれることがあるのでしょうか。

(飯塚市長) ICT支援員さんには、今年から。ちょっと詳しいことは、担当課から。

(福間学校教育課長) おっしゃる通りでございまして学校の教員、タブレットの整備が急に国の整備が進みました。導入された形なんですけども、やっぱりその得意な方、不得意の方いらっしゃいますし、その活用能力の向上というのは課題と思っております。そうし

た中で、市としましては、年間10回ぐらいの研修は、全部の教員が出て来れないのですけれども、学校にICTの推進担当を置いていただいております。その方々向けに年間10回程度まず研修して、校内でいろいろ先生方で教えていただくやり方と、先ほどお話に出ましたICT支援員を今年から派遣しております。3名ですが、3名がいずれかの学校を回っているという体制をとっております。これまで使わなかった機能とか、やってみるというところが、実際派遣したことによって、増えてきております。そういったところでも人的支援を行いながら、活用能力を上げていきたいと考えております。

(飯塚市長) 川田委員。

(川田委員) ありがとうございます。わかりました。

(飯塚市長) 他にございませんか。内藤委員。

(内藤委員) ICTでもう一つ、ふるさと教育というのも確かに重要なことで大切だなと思うのです。出雲に居ながら都会と繋がる、工場と繋がるとか、そういったものも、やっぱりこれからは出雲に居ながらということも必要になってくるのかなと思います。美郷町に行ったときは、車の工場と繋げたりして、非常に子どもたちには画期的な取り組みだったかなあと思って僕は見させてもらいました。それが出雲に居ながら、都会の方の工場が繋がったりだとか、どこかのメーカーと繋がったりして、見えるということのも一つの知識の広がりはあるのかなと思います。そういったものも活用しながらすると、先生たちの負担もまた軽減できるのかなと思ったりもします。都会の方のメーカーの人とか、そういうのに長けてるといえるのか、慣れてる人もおられますので、そういったものも、また今後利用されてもいいのかなと思いました。

(飯塚市長) 視察に行かれたのですか、教育委員会で。視察に行かれたことを踏まえて、参考にさせていただけるということですか。

(福間学校教育課長) 私、美郷町に行っていないんですけれども、実際には生徒たちは、例えば講演会など、都会の方の講演をZoomで聞いたりとかということも増えてきております。今の企業見学とかいうところでも企業の方の受入れと言うのもあるかもしれませんが、我々としては情報提供、情報収集に努めながら、学校の方に情報提供して進めていきたいと思っております。

(飯塚市長) 常松教育政策課長。

(常松教育政策課長) 現在、職場体験については中学生がやっているのですが、令和2年、令和3年度、ほとんどが中止となってしまって、体験する機会が失われてしまったところです。現在そういったところも、企業情報を市側の方にご協力、提供いただいて、そういった動画として、コンテンツとして提供いただいて、学校でICT機器を使ってできるような研究をしているところです。

(飯塚市長) 今、ICTとか様々な新しい取組みも取り入れながら教育活動の場で取り組んでいきたいというふうに思っております。その中の過程において様々ご提案があったことなどを取り入れていきたいというふうに思います。ご提案なりご助言なりいただければというふうに思います。この場所に限らずに、全体を通して、これから8年、2030年に向かって進んでいく方向がここにすべて記載されておりますので、また、見ていただければというふうに思います。拙い説明でしたけれど、このような資料を使って中学校の方には出向かせていただいて、思いを伝えて参りたいというふうに思っているところです。

◎教育を取り巻く諸課題

テーマ 「部活動について」

(飯塚市長) それでは、部活動についてということで意見交換を行いたいと思います。どんなからでも結構でございます。内藤委員。

(内藤委員) わからないのでお聞かせいただきたいんですけども、地域に指導してもらう、団体に指導してもらうということになった場合に、地域それぞれに、その団体の人が出てきてくれるわけなんですか。手を挙げてくれるというか、この会議に参加してもらえるわけなんですか。

(飯塚市長) 松井児童生徒支援課長。

(松井児童生徒支援課長) まだ、具体的な検討とか進め方というのは、これから考えていかなきゃいけないと思っております。まず、地域っていうものが、いわゆる中学校単位、中学校の校区を想定しています。まずは、一義的にそういった地域の皆さんが、センター子どもたちは指導できるというケースがあれば一番いいというか、そういった形の中で受けとめてもらえばいいんですけど、なかなかその地域の中だけで、今ある部活動が指導できる方がいらっしゃるということがないケースも当然想定されます。そういった場合は、近くの校区でありますとか、最終的には出雲市全体で、考えていく種目も出てくるんじゃないかなというふうに考えております。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) 校区いうところで内容は、把握させてもらいました。地域に渡すっていうことになってくると学校でやってたものよりも、さらにスポーツの競技として、そちらに熱中してしまって、何か学校ともちぐはぐになってしまうような気がするんですけど、何か考えはあるのでしょうか。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) 結局、教員の方から指導が離れていくということで、将来的にその学校の活動ではない、部活動という言葉が適切かどうかちょっとわかりませんが、いわゆる小学校でいうとスポ少さんと小学校の関係っていうのは、直接関係ないのですけど、先生の熱心な方は指導されてるとか、或いは先生が何かのためにちょっと応援とか行かれるとかいうケースがあるかわかりません。将来的にはそういったイメージであって、中学校の中での部活動という言葉が将来的にはなくなっていくような形でやって、あとはその今あるものをどういった形で確保していくかと。同じようなことを子どもたちができるようにしていくにはというスタンスで議論が始まっているのじゃないかなというふうに思っております。

(飯塚市長) 教育長お願いします。

(杉谷教育長) 内藤委員のおっしゃる、おそらく懸念しておられる部分というのは、現実としては課題として考えなきゃいけないことだと思います。この資料の中にある子どもたちがこのスポーツに対して将来どういう関わりをして欲しいかっていう中で、片方にはいろいろなスポーツを楽しんで、強くなるとか、上手になるというよりも体を動かすっていうことでのスポーツの親しみを生涯にわたって続けて行きたいという子もあれば、ある種目、特定的に競技力を高めて、それこそ全国1を目指すんだとか、もっと言えば、その将来プロ選手になってみたいな目標を持っている子たちもいて、それらが同じ、例えばそのクラブというんですか、今は部活なんですけれど、そこでやっていけるのかどうかっていうこともあると思います。現実、市内にあってもプロスポーツチームの傘下にある競技団体に所属をして、学校の部活には所属していないという子たちもいます。その子たちはそのいわゆる中体連の大会に出場できないという現実が今もあります。片方では中学校の部活を頑張っている子もいるし、同じスポーツというか部活動の種目をやっている子たちも現在でもいろいろなパターンがあって、将来的にこの地域移行になったときにさらに広がるだろうし、もっと言うと、どこの地域でも本当にその競技力を高めたいという指導者がいらっしゃるかどうかで、先ほど言いましたそういう課題にも繋がってくるんだろうと思うので、その170ぐらいある部活動を将来どういうふうにしていくのか、これは、単に

その学校から部活動を離していくというそういうことではなくて、子どもたちに将来スポーツというか運動に対してどういう関わりを持って欲しいかっていうところから議論をしないと非常に難しいのかなと、ちょっと個人的には思っています。

(飯塚市長) 内藤委員。

(内藤委員) おっしゃる通り、僕もそう思っていてなかなか難しいなと感じています。高校とは違うわけで、高校ではこういったスポーツであって、いろいろまた問題は多分出てこようかなと思うのです。そこまでこのスポーツに関しては詳しくないですけど、ただ、慎重に物事を進めていかないと、何かここの校区に行けばスポーツ強くなるから、こっち側へ行ってしまうとか、また偏った考えも出てこようかなとか思うので、その辺をしっかり教育の方とスポーツの方で協力し合いながら、見解を出していただきたいなと思います。

(飯塚市長) 貴重なご意見だと思います。高橋委員。

(高橋委員) ただ、漠然と地域となると、本当に内藤委員が言われたように、どこへ、いうんですかって、コミセン単位ですかとか、体協に言いますとかいろいろあるんです。私、今、多伎で総合型地域スポーツクラブにありますが、ただ、部活動を指導できるような種目をしていないとか、例えばそういう指導者を担うためには、やっぱりクラブにお金がないとそういったことができない。そういう舞台づくりというか、総合型地域スポーツクラブにしてもそうですし、スポ少にしてもそうですし、まず人とお金と、そういったものがないとなかなか進まない。この話は、私も総合型に関わって10年ぐらいになるのですが、既にもう10年前にはこういう話が出てました。全国で今、総合型3583ぐらいあるんですが、この出雲市内でも9つあるんです。スポーツ振興21の中に4つ、単独で5つという形であるんです。ただ、部活動の指導者を担ってるようなところは、今のところないと思います。ただ、漠然と地域となると、非常にまだまだ体制が整ってなさすぎると。そういった状況をきちんと把握したうえでしていかないと、なかなか移行というところまではいかないんじゃないかなっていう風に思います。どこに移行していこうと思っておられるのか、漠然と言われるというよりも、出雲市は、例えばこういう人材バンク作りますよとか、もうちょっとそういった詰めたところでお話をしていかないと進んではいけない話なんじゃないかなと思うので、どういうところに地域移行していくお考えなのかが、もうちょっと見えてくると私としてはいいかなっていうふうに思います。今、漠然と総合型地域やスポ少やクラブチームというふうに書いてあるんですけども、実際進んでいくにはどこへ言っていかれるんですかっていうふうに思ってしまうところもあるので、もう少し具体的に考えていただくといいかなと思います。

(飯塚市長) 副教育長。

(安井副教育長) 人材バンクという話もありました。今、地域移行の前に部活動の指導者、地域指導者という形で外部からの人材に入っていただくということで、今後、人材バンクというようなものも作って、地域のそうした方々にご協力をいただきたいと思います。先ほど言われた全般的な中で、部活動ということを今言っても皆さん一人一人その部活動のイメージが違うのではないかなと思います。厳し目の勝利至上主義というかそういうのを想像されると、それはもう当然指導者は限られています。子どももこれから増えるのかどうかというところもわからないところもあります。そうしたこともあって、この地域移行の中では生徒の状況に適した機会というあくまでスポーツに親しむ機会を確保するけれども、必ず勝つというか、本来、部活動もそういうものではないんですが、そういうイメージで捉えるとその勝てる指導者でいるところ、指導者の育成ということになりますけども、もう少し誰でも参加できるような、そういったものに変わっていく可能性もあると思います。今、言われるようにお示した170あまりの部活動一つ一つを、できる限りスポーツという観点で機会を確保したいと思いますけれども、行き先、やっていただける受け皿というのは一つ一つ検討していかないといけないと思います。その過程の中で、特定の先生がおられたのでやってこられたという部活もあろうかと思います。部活そのものの維持をするのか、社会教育になるわけですので、総合型とかでやっていただく場合とか、そういったいろんなことを考えていく必要があるのかなと。仰るように、今は雲を使うような話でして、私たちが考えているのは、今ある部活動をベースにそうした市長部局と教育委員会一緒になって、まずは、言われるようにどういうところにどのようにお願いをしていくのがいいのかという筋道を一つ一つ立ててあたっていくたいなと思います。まずはそういった協議会というようなものをしっかり作っていくたいなというふうに考えています。

(飯塚市長) 高橋委員。

(高橋委員) 中学校の9月というのが、例えば中体連の大会に出るためになるとまたちょっと別になってきて、先ほども言われたようにクラブチームだとその総体に出れないとか。特別でして、昨年実は多伎中には例年男子バレーボール部っていうのはないんですが、昨年、多伎中として出させていただいたっていう経緯があります。保護者が練習の活動時間に付いておくと、誰か1人必ず付いて、一応クラブチームという形で練習させていただいて、多伎中の子たちだけだったので、出たという経緯があるんです。それもまた一つ、なかなかその保護者がずっと付いておくということは難しいですけども、何かやらなきゃって思ったときに、保護者で立ち上がってみたりですとか、こういうところだけではなくて、中学校に投げかけてみるとか保護者に投げかけてみるっていうのも一つの手ですし、自分の子がこれをしたってなったときに、保護者がかなりの力で動くと思うのです。こ

れからは先生任せっていうよりも、地域と保護者も交えて全体で考えていくと、もうちょっとこう子どもたちがやりたいことに向かっていけるんじゃないかなっていう気はします。

(飯塚市長) 安井副教育長。

(安井副教育長) 貴重な意見ありがとうございます。そういったことも含めて検討していきたいと思います。

(飯塚市長) 冒頭の挨拶でもありましたけれども、議会の方でもかなり関心もあってですね議論がスタートした段階だというふうに思っています。これから文化系も同じような流れになるということでもあります。受け皿づくりとか課題がたくさんまだあるということは誰もが認識してる中で、団体等にヒアリング等をしてもらいながら、どのような受け皿であったりとか、会費だったりとか一つづの課題を解決できるようにしていきたいなというふうに我々も思っております。また報告させてもらいながら、地域の事情、ご存知な部分をいろいろ紹介してもらい、よりよい制度設計、よりよい運営ができていくと思います。よろしくお願ひしたいと思います。議題としては、以上でございます。これからしっかりと、取り組まさせていただきたいと思います。市長部局、教育委員会それぞれが力を合わせて参りたいというふうに思っております。よろしくお願ひしたいと思います。あわせて、先ほどいろいろな団体もありましたし、スポ少とか、既存の団体、また、保護者の方という話もありました。私は、ある意味企業の方にも理解していただいて、企業の方からも4時ぐらいから出かけていただけるような理解があってもいいのかなと思っています。いろいろな組み合わせもあると思いますので、取り組んでいきたいと思っています。それでは全体的な意見交換をさせていただきたいと思います。今までのところで、ちょっと聞き忘れだなと思うようなこと、それはまた、なんかちょっと違う分野でも構いません。ご意見ありましたらお願ひしたいです。副市長いかがですか。

(伊藤副市長) 部活動の話をいろいろ聞いてまして、大変難しい課題だなと思っています。国が対応スケジュールを示して、休日分の移行は3か年でするんだということ示してますので、あまり時間がないなと言うのが、正直な感想です。地域ってどこなんだという話が必ず出てくるとは思いますけれど、教育委員会だったり市長だったり、それからスポーツ団体だったりと一緒にこの問題の方向性を出さないと、特定の個人とかその時々個性とかに頼ってると、たぶん長続きしないので組織として、持続可能な受け皿で何か考えないと、前に進まないなというのが正直な感想です。いろいろ情熱のある方、その時々いらっしゃいますけどもその時はいいのでしょうし、そのときの情熱のある保護者、熱心な保護者がいるときはいいんでしょうけど、子どもが卒業したりしてそういう方がいらっしゃらなくなると、途端に続かなくなるということもなくなってはいけませんので、持続性

といいますか、組織性といいますかその辺りをしっかりと固めていかないとこの問題、見えないのかなというのが率直な感想です。できるだけ早く関係者のこういう協議会なるものを立ち上げて、いろいろな意見を交わして、やっていく必要があるというふうに思いました。

(飯塚市長) それでは、今日の次第はすべて終了いたしましたので、進行の方を事務局へお返しします。

(安井副教育長) 本日は貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。いただいた意見につきましては、事務局でまた検討させていただいて進めていきたいと思っています。第2回の総合教育会議につきましては、年末になりますけど12月20日の火曜日を予定しております。議題については、現段階で、高橋委員からのご提案をいただいているのが1件ございまして、ICT教育についてということで、これにつきましては11月に学校訪問で現場を見ていただきまして、12月の当会議で意見交換をお願いしたいと考えております。今、お一ついただいているということで、もう一つぐらいあってもいいかなと思っております。意見交換したいという案件がございましたら、事務局までお知らせをいただきたいと思います。よろしく願いをいたします。それでは、終わりに教育長が一言ご挨拶を申し上げます。

(杉谷教育長) 2時間にわたりまして2つのテーマについて、いろいろご意見をいただきありがとうございました。総合振興計画の中で、市長の方から市政運営のポイントとして4つ示されました中の2つ目のデジタルファーストの推進、これが今日、特に話題が出ておりましたICT活用ということになるかと思います。教育における徹底したトランスフォーメーションをどう進めるかということだと思います。確かにいろいろな支援の必要な子どもに対するICT活用もあるでしょうし、子どもたち一人一人どの子に対してもやっぱり有効な活用ということもあるでしょうし、もう一つは保護者にとっても、有効な活用方法あるんじゃないかというふうに思っております。実際、まだまだ学校では紙ベースでいろんなアンケートがされてたりしておりますが、それがこのデジタルに代わってですね、瞬時に集計までできてしまっただけで、分析に入るといようなこともメリットだと思っております。このICTの活用については本当に幅も広いですし、活用の方法によってはいろいろな子の支援に繋がるんじゃないか、保護者の支援に繋がるのではないかと考えております。市長の考え方の3つ目の持続可能な地域づくり、これ中山間地域というふうに掲げておられますが、先ほどの部活動に関して言えば、やはり持続可能な地域づくりの一つの観点かなと思っております。今回、運動部活動についての提言が出て、やがて文化部活動についても出るということです。教育委員会としてはできるだけ早期に、先ほど副市長の方からもありましたように早期に検討会を立ち上げるということで、今準備を進めつつある

ところです。どういうメンバーでどういう柱でやっていくのかっていうことは、まだこれからですけども、時間がない中であってできるだけ速やかな対応策の検討に入れるようにしたいと思っております。また、教育委員の皆様にも、情報提供しながらご意見をいただく考えでおります。地域の状況等を踏まえて、助言をいただければと思っております。本日は、本当にいろんなご意見をいただき、教育委員会事務局としてもそのご意見を真摯に受けとめて、今後の教育施策の展開に当たって参りたいと思います。本日は、本当にありがとうございました。

(安井副教育長) それでは以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。

(5時1分終了)